

公立東濃中部医療センター

病院の概要

開設時期：令和8年2月
開設者：東濃中部病院事務組合管理者 土岐市長
院長名：森島 逸郎
病床数：400床
標榜科：内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、血液内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、血管外科、心臓血管外科、大腸・肛門外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、リウマチ科、アレルギー科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、緩和ケア内科

医師数：69名
指導医師数：33名
外来患者数：557名／日
入院患者数：278名／日
所在地：土岐市肥田町浅野1078番200
URL：https://tono-chubu.gfkosei.or.jp



病院の特徴

土岐市及び瑞浪市には、土岐市立総合病院及び東濃厚生病院がそれぞれ中核病院として存在し、地域医療を守ってきました。東濃中部地域における新たな医療提供体制の構築に向けて岐阜県が策定した地域医療構想を踏まえ、「将来にわたり継続的・安定的に医療提供ができること」を目標に2病院が統合。400床規模の新病院として「公立東濃中部医療センター」が開院しました。

当院は、急性期、回復期その他、地域包括、緩和ケア病棟をもち、従来の診療科に加え、産科の再開、リハビリ施設の拡充、緩和ケア、発達障害への対応その他、形成外科、歯科口腔外科、ロボット手術などを充実させる予定です。

最新鋭の設備を整えた新病院のスタートにふさわしく、多くの研修医の先生方が当院での研修を希望してくださる事を心より期待しております。

病院長メッセージ



森島逸郎

令和8年2月に開院した新病院は、土岐市と瑞浪市の中間地点である土岐市肥田町浅野に位置し、東濃中部地域の新たな中核医療拠点として整備されました。

当院では、従来の診療科に加え、産科の再開、リハビリテーション機能の拡充、緩和ケア、発達障害への対応など、地域ニーズに応じた医療提供体制を強化しています。さらに、形成外科や歯科口腔外科の充実、ロボット手術の導入などにより、高度で専門性の高い医療を実践しています。

急性期から回復期、在宅支援まで切れ目のない医療を提供する中で、幅広い症例と多様な診療経験を積むことができる環境が整っています。

新しい環境でともに学び、成長していく研修医の皆様を心よりお待ちしております。

指導医メッセージ

私たち公立東濃中部医療センターは「地域にしながら、高度な医療を届ける」ことに本気で取り組んでいる病院です。

当院では各診療科をまたいだ横断的な研修、救急初療から在宅支援まで一貫して患者さんを診る経験を積むことができます。これらは、大きな大学病院ではなかなか得られないものです。

目の前の患者さんと一緒に悩み、一緒に喜び、最良の医療を探し続ける。それが当たり前の日常です。新しい病院には、最新の電子カルテや画像診断機器、手術支援ロボットも完備され、緩和ケア病棟も設置されています。地域医療に興味がある人も、将来は専門医として大きな病院で活躍したいと思っている人も、ここでの経験は、必ずあなたの「武器」になります。

地域を守るという誇りと、高度医療に挑むというプライド。両方を胸に、一緒に成長していきましょう。まずはぜひ、見学に来てください。お待ちしております！

研修医メッセージ

スタッフの人数は決して多くありませんがその分、上級医を含むメディカルスタッフとの距離が近く、患者さんとも挨拶を交わす明るい雰囲気があります。2026年4月現在、研修医は16名で、互いに助け合い、研修医室での会話を通じて多くの交流が生まれています。さまざまな診療科で、手技を見学するだけでなく実際に経験を積むことができるため、早い段階から実力を伸ばす機会があります。

5月頃からは、早速当直が始まります。研修医が主体となって診察・検査・治療まで考える機会がありますが、入院や帰宅の判断は研修医のみで行うのではなく、必ず上級医のサポートのもとで決定します。フィードバックも丁寧に行われるため、自身の改善点をしっかりと把握することができます。当直を含め、日常の診療においても研修医の意見が反映されやすく、医療者としての自覚を持って主体的に関わることができます。指導医も積極的に声をかけてくれるので、学びの場が多くあります。

2026年2月には、「公立東濃中部医療センター」として新たにスタートしました。私たち研修医で新病院を盛り上げていきたいと思っています。見学も随時受け付けているので、興味があったら是非お越しください！

研修スケジュール

患者を全人的に診ることのできる医師としての基本的診療機能を身につけ、プライマリ・ケアに対応できる臨床医としてのトレーニングを行う。2年目の研修後を見据えた柔軟性を持たせたプログラムとなっている。

	1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
1年次	内科						救急			外科	小児科	選択科	
2年次	選択科		地域医療	選択科	産婦人科	選択科	精神科	選択科					

研修協力病院・施設

岐阜県立多治見病院（産婦人科）	春日井市民病院（産婦人科）	市立恵那病院（地域医療）
名古屋大学医学部附属病院（産婦人科）	岐阜県赤十字血液センター	国民健康保険上矢作病院（地域医療）
医療法人社団聖泉会聖十字病院（精神科）	医療法人仁誠会大湫病院（精神科）	医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
国民健康保険坂下診療所（地域医療）	中濃厚生病院（救急）	恵那市国民健康保険山岡診療所（地域医療）
西美濃厚生病院（地域医療）	西濃厚生病院	岐北厚生病院
久美愛厚生病院		

研修プログラムの目標

初期臨床研修を将来、医療を担うものにとって最も重要な時期の一つとして位置付けており、プライマリ・ケアを含めた医療に関する考え方、基本的知識及び技術を臨床の場において広く修得するのみではなく、医師としてふさわしい人格、責任及び協調性、更に高い倫理観を身につけると共に患者様の立場に立った全人的医療を実践できる人材の育成を目的としています。

研修プログラムの特徴

初年度は内科系24週以上、救急を12週以上、外科、小児科については4週以上、2年次は地域医療、精神科、産婦人科を4週以上行います。残りの期間はそれぞれ希望により選択します。各科の横の繋がりの連携もよく横断的・多角的な研修が可能です。救急外来、当直は2年間を通じて研修し、担当した症例はローテーション科に拘らず主治医と共に受け持ちます。当直は月4～5回程度です。

募集要項

応募資格：令和10年3月に医師免許を取得する見込みである者
医師免許取得者で初期臨床研修を修了していない者

募集人員：8名（予定）

身分：常勤嘱託医

給与：与：〈モデル給与〉
1年次：年収 約820万円、月給：約60万円
2年次：年収 約870万円、月給：約63万円
※モデル給与の補足：研修医手当、ベースアップ評価料対象手当、住居手当、時間外手当含む（当直：4回、日直：1回）

住居等：住居手当として最大27,000円を補助

保険等：有（健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険・医師賠償責任保険）

連絡先

公立東濃中部医療センター 企画総務課 研修医担当
電話番号：0572-55-2111
E-mail: tono.soumu7@gfkosei.or.jp

交通案内

